

Oracle® Secure Global Desktop ユーザーガイド (リリース 4.7 用)



E35245-01
2012 年 8 月

Oracle® Secure Global Desktop: ユーザーガイド (リリース 4.7 用)

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアはさまざまな情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

概要

オラクル Secure Global Desktop (SGD) ソフトウェア用のユーザーガイド。このマニュアルでは SGD の基本的な使用方法について説明します。SGD へのログインとログアウト、アプリケーションの実行、およびドキュメントの出力を行う方法について説明します。上級ユーザー向けの構成情報と、SGD で使用される用語の用語集が含まれています。

ドキュメント作成日: 2013-01-04 (revision: 1406)

目次

はじめに	v
1. 対象ユーザー	v
2. ドキュメントの構成	v
3. ドキュメントのアクセシビリティ	v
4. 関連ドキュメント	v
5. 表記規則	v
1. オラクル Secure Global Desktop の使用	1
1.1. ログイン	1
1.1.1. ユーザー名とパスワード	1
1.1.2. SGD にログインする方法	1
1.1.3. セキュリティー警告メッセージ	5
1.2. SGD Webtop	6
1.2.1. メニューバー	7
1.2.2. アプリケーション領域	7
1.2.3. 印刷領域	7
1.2.4. 情報領域	7
1.3. アプリケーションの使用	8
1.3.1. アプリケーションの実行	8
1.3.2. アプリケーションの中断と再開	9
1.3.3. アプリケーションの表示方法の変更	11
1.3.4. アプリケーション間での情報のコピー	11
1.3.5. 異なるユーザー名とパスワードによるアプリケーションの実行	11
1.3.6. 1 つボタンの Apple Macintosh マウスの使用	11
1.4. 印刷	12
1.4.1. 印刷ジョブの管理	12
1.4.2. UNIX プラットフォームアプリケーションからの印刷	12
1.4.3. Windows アプリケーションからの印刷	13
1.4.4. PDF 印刷	13
1.4.5. 印刷のトラブルシューティング	14
1.5. 設定の変更	15
1.5.1. クライアント設定	15
1.5.2. アプリケーショングループ	15
1.6. My Desktop の使用	17
1.7. SGD Webtop からのログアウト	17
A. SGD Client の手動インストール	19
A.1. SGD Client のインストール	19
A.1.1. Microsoft Windows プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法	19
A.1.2. Oracle Solaris プラットフォームおよび Linux プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法	21
A.1.3. Mac OS X プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法	22
A.2. SGD Client の起動	23
A.2.1. SGD Client を構成する方法	23
B. 詳細構成	27
B.1. クライアント設定	27
B.1.1. ログインページの URL の変更	27
B.1.2. 言語の変更	27
B.1.3. プロキシ設定の変更	27
B.1.4. 代替 PDF ビューアの指定	27
B.2. 印刷	28
B.2.1. クライアントプリンタの構成	28
B.3. コンピュータ上のドライブへのアクセス	28
B.3.1. 取り外し可能ドライブの使用	29
C. プロファイルの設定	31
C.1. プロファイル設定の説明	31
D. 用語集	35
索引	37

はじめに

『Oracle Secure Global Desktop ユーザーガイド (リリース 4.7 用)』では、Oracle Secure Global Desktop (SGD) の使用について紹介します。このマニュアルでは、SGD を使ってアプリケーションを実行する方法についての情報を提供します。このドキュメントは、SGD の新規ユーザーおよび既存ユーザーの両方を対象としています。

1. 対象ユーザー

このドキュメントは、SGD の新規ユーザーを対象にしています。Web 関連のテクノロジーに関する知識と、Windows および UNIX のプラットフォームに関する一般的な知識が必要となります。

2. ドキュメントの構成

このドキュメントは次のように構成されています。

- [1章 Oracle Secure Global Desktop の使用](#)では、SGD を使ってコンピュータからアプリケーションを実行する方法について説明します。
- [付録A SGD Client の手動インストール](#)では、SGD Client をコンピュータに手動でインストールする方法について説明します。
- [付録B 詳細構成](#)では、SGD の上級ユーザー向けの構成設定について説明します。
- [付録C プロファイルの設定](#)では、利用可能なプロファイル設定について説明します。
- 単語や語句とその定義から成る用語集も含まれています。

3. ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対するオラクルのコミットメントについては、オラクルのアクセシビリティプログラムの Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

お客様は、My Oracle Support を通じてオンラインでのサポートをご利用いただけます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> (聴覚障害をお持ちの方は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

4. 関連ドキュメント

この製品のドキュメントは、次のサイトで入手できます。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/index.html/documentation/sgd-193668.html>

追加情報については、次のマニュアルを参照してください。

- Oracle Secure Global Desktop 管理者ガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop インストールガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop Gateway 管理者ガイド (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop のプラットフォームサポートおよびリリースノート (リリース 4.7 用)
- Oracle Secure Global Desktop Security Guide for Release 4.7

5. 表記規則

このドキュメントでは、次のような表記規則を使用しています。

表記規則	意味
ボールド体	ボールド体の個所は、アクションに関連するグラフィカルユーザーインターフェース要素、テキストや用語集で定義された用語などを表しています。
イタリック体	イタリック体の個所は、書名、強調語句、特定の値が指定されるプレースホルダ変数などを表しています。
モノスペース体	モノスペース体の個所は、パラグラフ内のコマンド、URL、例示されているコード、画面上に表示されるテキスト、ユーザーが入力するテキストなどを表しています。

第1章 オラクル Secure Global Desktop の使用

Secure Global Desktop (SGD) によって、アプリケーションサーバー上で実行中のデスクトップアプリケーションへのセキュアリモートアクセスが実現できます。

SGD を使用すると、オフィス内のコンピュータでレポートを作成することも、自宅の PC 上で UNIX プラットフォームのサーバーを管理することも、列車内でノート PC を使って株価データベースを調べることも、すべてが可能になります。

また、SGD によって、セキュアネットワーク接続経由でアプリケーションを実行することにより、企業データや個人情報保護できます。

SGD を使用すると、実行可能なすべてのアプリケーションを 1 つの場所 (Webtop) から利用できます。

Webtop にアクセスするために必要なものは、Java テクノロジに対応したブラウザだけです。

このマニュアルでは SGD の基本的な使用方法について説明します。このソフトウェアにログインおよびログアウトする方法や、SGD を使ってアプリケーションを実行する方法について説明します。

1.1. ログイン

このセクションでは、SGD にログインする方法について説明し、SGD の Webtop を表示します。

1.1.1. ユーザー名とパスワード

SGD を使用する場合、次の各サーバーのユーザー名とパスワードを知る必要があります。

- SGD サーバー
- アプリケーションを実行するアプリケーションサーバー

次の表では、SGD を使用する際に必要となる可能性のあるユーザー名とパスワードについて説明します。

ユーザー名とパスワード	説明
SGD サーバー	<p>SGD にログインする際に、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。これは、SGD サーバーがユーザーを認識し、そのユーザーの Webtop を表示できるようにするユーザー名とパスワードです。SGD への次のログイン時まで、このパスワードを再度入力する必要はありません。</p> <p>また、匿名で、つまりユーザー名とパスワードを入力せずに、SGD にログインすることもできます。</p> <p>パスワードの有効期限が切れているか有効期限が近付いている場合は、パスワードを変更するように求められることがあります。</p>
アプリケーションサーバー	<p>アプリケーションを起動する際に、アプリケーションを起動するアプリケーションサーバー用のパスワードを入力する必要があります。SGD サーバーはこれらのパスワードを記憶できるため、ユーザーがそれらを毎回入力する必要はありません。ユーザー名とパスワードの入力時に「このパスワードの保存」オプションが使用できる場合は、それを使用します。</p> <p>別のユーザー名とパスワードを使ってアプリケーションを起動する場合、SGD にユーザー名とパスワードの入力を要求させることができます。</p>

1.1.2. SGD にログインする方法

SGD にログインする前に、次の要件が満たされているか確認してください。

- JavaScript ソフトウェアがブラウザで有効になっています
- Java テクノロジがブラウザで有効になっています

**注記**

Java テクノロジがブラウザで有効になっていない場合は、SGD Client プログラムをコンピュータにダウンロードできます。詳細については、「[SGD Client のインストール](#)」を参照してください。

- SGD サーバーのユーザー名とパスワードがわかっています。ユーザー名とパスワードが不明な場合は、SGD 管理者に連絡してください。
- SGD サーバーのログイン URL がわかっています。SGD ログインページの URL が不明な場合は、SGD 管理者に連絡してください。

1. ブラウザを使用して SGD のログイン URL に移動します。

SGD のログイン URL は通常、<https://server.example.com/sgd> です。ここで、server.example.com は SGD サーバーの名前です。

**注記**

Java テクノロジがブラウザで有効になっていない場合、警告メッセージが表示されます。処理を続行するには、Java テクノロジをブラウザで有効にする必要があります。

SGD ログインダイアログボックスが表示されます。[図1.1「SGD ログインダイアログボックス」](#)を参照してください。

図1.1 SGD ログインダイアログボックス

Secure Global Desktop

Username

Password

LOGIN

ORACLE

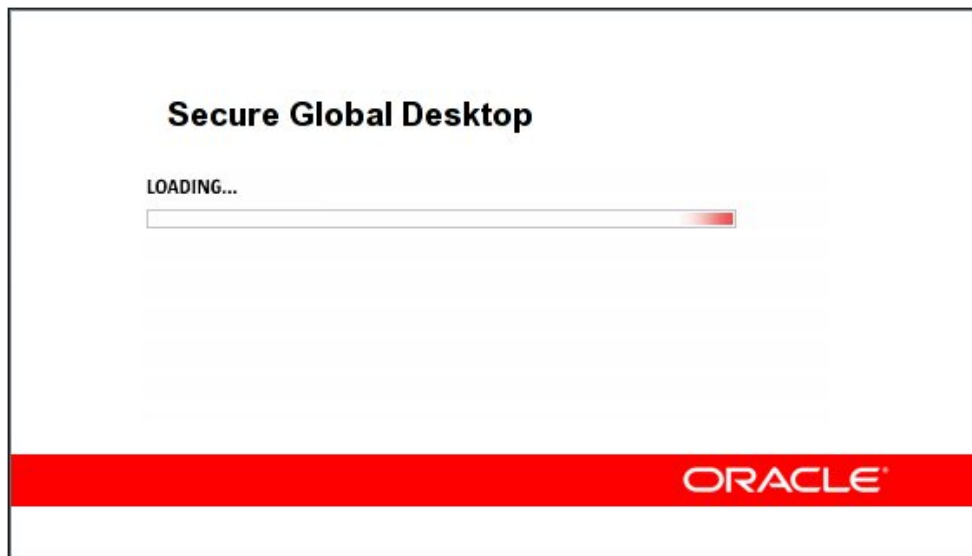
**注記**

JavaScript がブラウザで有効になっていない場合、ログインダイアログボックスの下に警告メッセージが表示されます。

2. SGD のユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「ログイン」ボタンをクリックします。

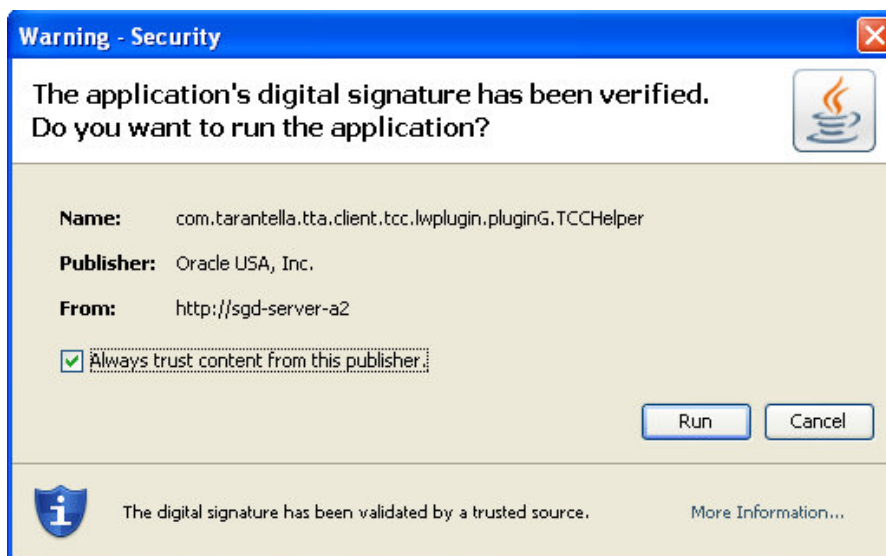
SGD の起動中はスプラッシュ画面が表示されます。[図1.2「SGD のスプラッシュ画面」](#)を参照してください。

図1.2 SGD のスプラッシュ画面



Java テクノロジーのセキュリティー警告が表示されます。これは、SGD サーバーへの初回接続時に表示されるセキュリティーメッセージです。図1.3「Java テクノロジーのセキュリティー警告ダイアログボックス」を参照してください。

図1.3 Java テクノロジーのセキュリティー警告ダイアログボックス



「Always Trust Content From This Publisher」オプションを選択し、「Run」をクリックします。

初期接続ダイアログボックスが表示されます。これは、SGD サーバーへの初回接続時に表示されるセキュリティーメッセージです。図1.4「初期接続ダイアログボックス」を参照してください。

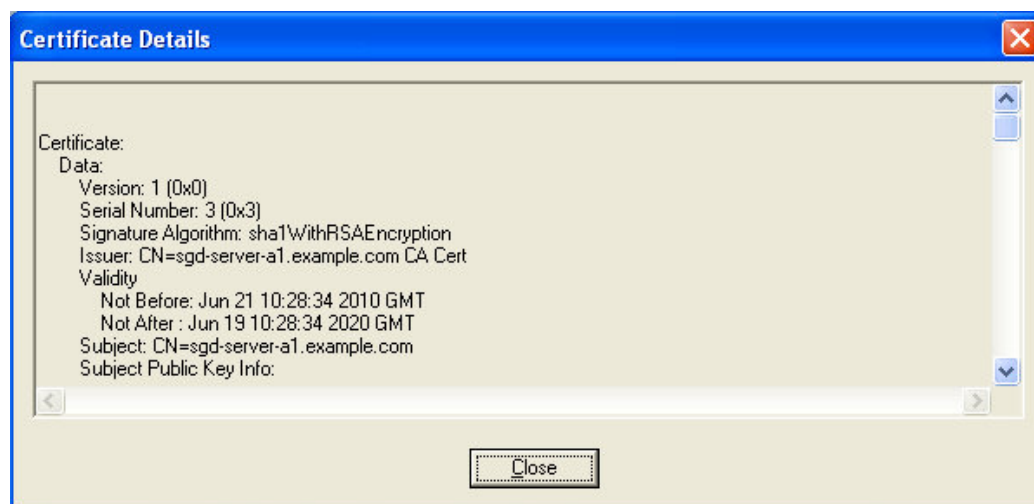
図1.4 初期接続ダイアログボックス



4. (オプション) 「証明書の表示」ボタンをクリックします。

「証明書の詳細」ダイアログボックスが表示されます。この画面では、セキュリティー証明書の詳細を表示し、接続先のサーバーが信頼できるかどうかを確認することができます。図1.5 「「証明書の詳細」ダイアログボックス」を参照してください。

図1.5 「証明書の詳細」ダイアログボックス



- a. 「有効期間」および「サブジェクト」フィールドが正しいことを確認します。
b. 「閉じる」をクリックします。

初期接続ダイアログボックスが再度表示されます。

5. 証明書の詳細が正しければ、「はい」をクリックして接続に同意します。

「はい」をクリックすると、接続に問題がある場合を除いて、このセキュリティーメッセージが再度表示されることはありません。

図1.6 「SGD Client タスクバーアイコン」に示すように、SGD Client アイコンがタスクバーに表示されます。

図1.6 SGD Client タスクバーアイコン



SGD Webtop が表示されます。図1.8「SGD Webtop」を参照してください。

1.1.3. セキュリティー警告メッセージ

SGD サーバーに <https://> URL を使用して接続するとき、次のセキュリティー警告の一部またはすべてが表示されることがあります。表示される警告メッセージは、ブラウザおよびクライアントデバイスが、SGD サーバーにインストールされている SSL (Secure Sockets Layer) 証明書を処理するように構成されているかどうかによって異なります。

- ブラウザと Java Plug-in ソフトウェアのセキュリティー警告。これらの警告は、SSL 証明書に署名するために使用される CA 証明書またはルート証明書が、ブラウザの証明書ストアにないことを示します。また、Java Plug-in ソフトウェアを使用して CA 証明書またはルート証明書をインポートすることが必要な場合もあります。
- SGD サーバーの SSL 証明書のセキュリティー警告。SSL 証明書についてのセキュリティー警告が表示されるのは、証明書の日付が無効であるか、ホスト名が間違っているか、不明な認証局 (CA) によって発行された場合です。
- 信頼されない初期接続の警告。この警告は、SGD サーバーにはじめて接続した場合に表示されます。証明書の詳細を確認し、接続に同意します。SSL 証明書が変更されたなどの理由で接続に問題が発生した場合は、「安全でないおそれのある接続」メッセージが表示されます。「[「安全でない可能性のある接続」メッセージ](#)」を参照してください。

セキュリティー警告が発生する理由と、実行可能な処理の詳細については、SGD 管理者に連絡してください。

1.1.3.1. 「安全でない可能性のある接続」メッセージ

SGD サーバーへの接続にセキュリティー上の問題が存在する場合は、図1.7「[「安全でない可能性のある接続」メッセージ](#)」に示すように、「安全でないおそれのある接続」メッセージが表示されます。

図1.7 「安全でない可能性のある接続」メッセージ



「安全でない可能性のある接続」メッセージが表示された場合には、次の手順を実行します。

「安全でない可能性のある接続」メッセージを処理する方法

1. 「証明書の表示」ボタンをクリックし、証明書の詳細を書き留めます。

2. 次のいずれかを実行します。

- ・「受け入れる」ボタンをクリックして証明書に同意し、SGD サーバーに接続します。

証明書の変更理由が悪意によるものでないことがたしかな場合のみ、これを行います。証明書に受け入れるかどうかについて助言が必要な場合、SGD 管理者に連絡してください。

- ・「拒否する」ボタンをクリックして接続を取り消します。

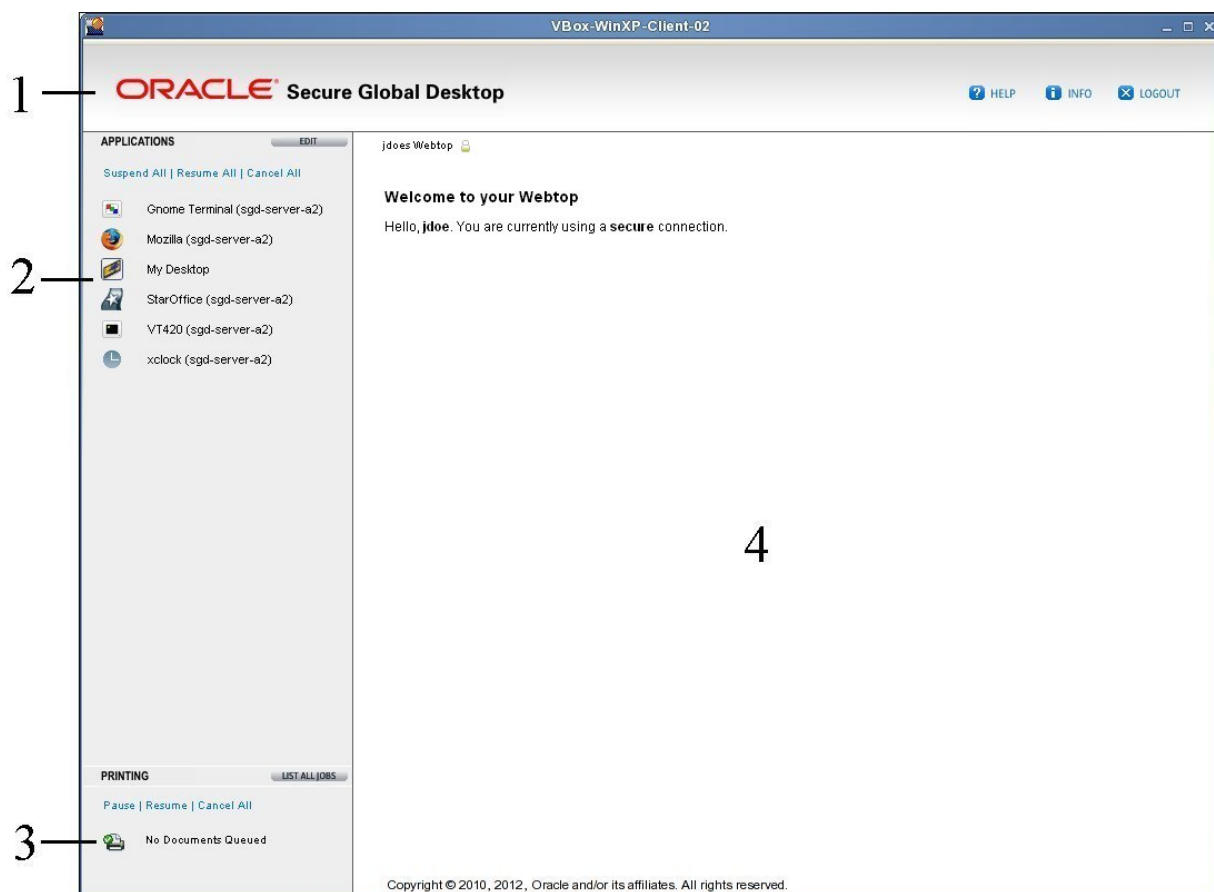
助言が必要な場合、SGD 管理者に連絡してください。

1.2. SGD Webtop

Webtop は特殊な Web ページであり、SGD 経由で実行できるアプリケーションを一覧表示し、ユーザーがそれらを実行できるようにします。

図1.8 「SGD Webtop」 に、Webtop のさまざまな領域を示します。

図1.8 SGD Webtop



番号	名前	説明
1	メニューバー	「ログアウト」、「ヘルプ」、および「情報」ボタンが含まれます
2	アプリケーション領域	実行可能なアプリケーションを一覧表示します
3	印刷領域	印刷ジョブを管理できるようにします
4	情報領域	エラーメッセージおよびシステム情報を表示します


次の各セクションでは、Webtop のさまざまな領域について説明します。

1.2.1. メニューバー

Webtop のこの領域には、ログアウト用のボタンと、ヘルプおよび診断情報を表示するためのボタンが含まれます。

SGD のログアウトの詳細については、「[SGD Webtop からのログアウト](#)」を参照してください。

Webtop から、診断情報を含むページを表示できます。これは、サポートに連絡する必要がある場合に役立ちます。

Webtop の「情報」ボタン  INFO をクリックし、続いて情報領域の「詳細な診断」リンクをクリックします。

1.2.2. アプリケーション領域

Webtop のアプリケーション領域は、SGD 経由で実行可能なアプリケーションのリストを表示するために使用されます。

アプリケーションの実行方法の詳細については、「[アプリケーションの使用](#)」を参照してください。

実行可能なアプリケーションのリストにアプリケーションの追加や削除を実行できるのは、SGD 管理者だけです。実行可能なアプリケーションを増やす場合は、SGD 管理者に連絡してください。ただし、アプリケーションを Webtop にいつ、どのように表示するかを設定することは可能です。これを設定するには、Webtop グループを作成します。「[アプリケーショングループ](#)」を参照してください。

1.2.3. 印刷領域

Webtop の印刷領域には、印刷ジョブの一覧表示と制御を可能にするリンクが含まれます。

印刷の詳細については、「[印刷](#)」を参照してください。

1.2.4. 情報領域

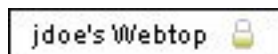
情報領域は、エラーメッセージおよびシステム情報を表示するために使用されます。表示される情報は次のとおりです。

- ユーザー名
- セキュア接続のステータス
- LDAP および Active Directory アカountのパスワード有効期限のメッセージ

1.2.4.1. ユーザー名

SGD ユーザー名は、[図1.9「Webtop ツールバー上に表示されたユーザー名」](#)に示すように Webtop ツールバーの南京錠のアイコンの横に表示されます。


図1.9 Webtop ツールバー上に表示されたユーザー名



ツールバーに「ゲストユーザー」としてログインしていることが表示された場合は、ユーザー名とパスワードを入力しないでログイン (匿名ログインと呼ばれる) したか、使用中の Webtop がほかのユーザーと共有されています。

これらの詳細は、初回ログイン時に Webtop にも表示されます。

1.2.4.2. セキュア接続のステータス

セキュア接続を使用している場合は、ロックされた南京錠のアイコン  が Webtop メニューバーの下に表示されます。また、初回のログイン時に、Webtop 上のページにセキュア接続と標準接続のどちらを使用しているかが示されます。

通常は、セキュア接続を受信します。SGD への標準接続は、SGD 管理者が特別に使用可能にした場合にのみ使用できます。

必要なときにセキュア接続が確立できない場合は、SGD 管理者に連絡してください。

1.3. アプリケーションの使用

アプリケーションの起動、停止、および管理を行うには、Webtop のアプリケーション領域を使用します。

1.3.1. アプリケーションの実行

アプリケーションを起動するには、[図1.10「アプリケーション実行用の Webtop リンク」](#)に示すような、Webtop 上のアプリケーションのリンクをクリックします。アプリケーションがすぐに表示され、使用できるようになります。

図1.10 アプリケーション実行用の Webtop リンク



アプリケーションを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力を要求される場合があります。これは、そのアプリケーションを実行するアプリケーションサーバーに対するユーザー名とパスワードです。

別のアプリケーションを起動する前にアプリケーションを終了する必要はありません。単に別のリンクをクリックします。

SGD 管理者は、アプリケーションの表示方法を構成します。

問題が発生した場合は、SGD 管理者に連絡してください。

1.3.1.1. アプリケーションのインスタンス数

あるアプリケーションが実行中である場合、Webtop 上でそのアプリケーションの名前の前に三角形が、その後ろに括弧で囲まれた数字が、それぞれ表示されます。セッションツールバーも、アプリケーション名の下に表示されます。セッションツールバーはアプリケーションを中断、再開、または終了するために使用されます。[図1.11「アプリケーション実行中の Webtop リンク」](#)に、アプリケーションの 2 つのインスタンスが実行中の Webtop リンクを表示します。

図1.11 アプリケーション実行中の Webtop リンク



括弧内の数字は、ユーザーが起動したアプリケーションの独立したインスタンスの個数です。SGD 管理者は、起動できるアプリケーションのインスタンスの数を構成します。

実行可能なアプリケーションのインスタンス数を確認するには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動します。表示されるポップアップに、使用可能なセッション数が表示されます。

詳細については、「[アプリケーションの中断と再開](#)」を参照してください。

1.3.1.2. アプリケーション起動時にエラーメッセージが表示されたらどうすればよいか。

アプリケーション起動用リンクをクリックしたときに、エラーメッセージが表示された場合は、次のいずれかを試してください。

- ・アプリケーションサーバー用の正しいユーザー名とパスワードを入力したことを確認します。SGD からこの情報が要求されない場合は、Shift キーを押しながらリンクをクリックしてプロンプトを強制的に表示させます。
- ・SGD からログアウトし、ブラウザを終了してから再起動し、SGD に再度ログインします。アプリケーションのリンクをクリックします。
- ・SGD 管理者に連絡して、エラーメッセージに表示されるすべての情報を伝えます。

1.3.1.3. アプリケーションの起動時にチューザページが表示されたらどうすればよいか。

アプリケーションを起動するリンクをクリックしたときに、情報領域にチューザページが表示される場合があります。

アプリケーションの構成方法に応じて、チューザページを使用して、アプリケーションを実行するアプリケーションサーバーを選択したり、起動されるアプリケーションを選択したり、その両方を選択したりすることができます。

図1.12 チューザページ、アプリケーションサーバーの選択

Select an Option:

Server	Description
<input type="radio"/> app-server-1	app-server-1 - app-server-1.example.com
<input checked="" type="radio"/> app-server-2	app-server-2 - app-server-2.example.com

Start Cancel

チューザページは、すべてのアプリケーションで自動的に表示されるわけではありません。SGD 管理者が構成する必要があります。

1.3.2. アプリケーションの中断と再開

アプリケーションの中には、表示されていなくても実行し続けるように設定されるものもあります。それらは再開可能なアプリケーションと呼ばれます。

アプリケーションを終了しないでそのアプリケーションのウィンドウを閉じるには、アプリケーションを中断します。ウィンドウを再度表示してアプリケーションを使い始めるには、アプリケーションを再開します。

アプリケーションは表示されていなくても引き続き実行されているため、オフィスで急ぎのレポートの作成を開始し、一日の終わりに SGD からログアウトできます。アプリケーションは中断されています。帰宅したあとで SGD に再度ログインしてアプリケーションを再開し、レポートの続きを作成できます。

アプリケーションの中断と再開は、Webtop 上のセッションツールバーを使って行います。

1.3.2.1. アプリケーションを制御するためのセッションツールバー

セッションツールバーは、アプリケーションの実行中のインスタンスごとに存在します。




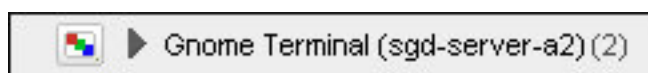
- ・アプリケーションを中断するには、 をクリックします
- ・アプリケーションを再開するには、 をクリックします
- ・アプリケーションを終了するには、 をクリックします。

図1.13 「非表示状態のセッションツールバー」に示すように、アプリケーションセッションのセッションツールバーの表示/非表示を切り替えるには、三角形をクリックします。

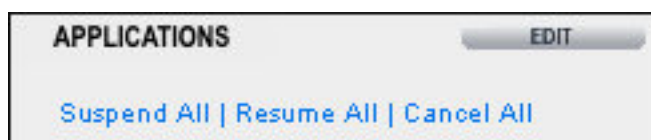
図1.13 非表示状態のセッションツールバー



アプリケーション領域の最上部にある次の各リンクを使えば、すべてのアプリケーションセッションを一度に管理できます。

- 実行中のすべてのアプリケーションを中断するには、「すべて中断」リンクをクリックします
- 中断されているすべてのアプリケーションを再開するには、「すべて再開」リンクをクリックします
- 実行中のアプリケーションや中断されているアプリケーションをすべて終了するには、「すべて取消し」リンクをクリックします


図1.14 すべてのアプリケーションセッションを管理するためのリンク



1.3.2.2. アプリケーションの再開機能の設定

アプリケーションが再開可能かどうか調べるには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動して、表示されるポップアップウィンドウを確認します。

次の表では、アプリケーションで使用可能な再開機能設定について説明します。

再開機能の設定値	説明
再開不可能	<p>ユーザーが SGD からログアウトすると、このアプリケーションは終了します。再開可能でないアプリケーションを中断または再開することはできません。</p> <div>  <div> <p>注記</p> <p>再開可能でないアプリケーションでは、セッションツールバーに取り消しボタンしか表示されません。</p> </div> </div>
ログアウト時まで再開可能	このアプリケーションは、ユーザーが SGD からログアウトするまで動作し続けます。ログインしている間は、これらのアプリケーションを中断および再開できます。
常に再開可能	このアプリケーションは、ユーザーが SGD からログアウトしたあとも動作し続けます。再度ログインした際に、再開ボタンをクリックすると、実行中のアプリケーションが再度表示されます。



注記

ユーザー名とパスワードを入力しないで SGD にログインした場合、再開可能なアプリケーションを再開できるのは、ログアウトするまでの期間だけです。

1.3.2.3. ブラウザを閉じた場合に、作業内容が消失するかどうか

ログアウトしないでブラウザを誤って閉じたり、ブラウザがクラッシュしたりしても、作業内容が消失することはありません。ブラウザを再起動して SGD にログインすれば、Webtop を表示できます。

ただし、SGD Client が予期せずに終了した場合やユーザーが SGD Client を閉じた場合、あるアプリケーションを再開できるかどうかは、SGD 管理者がそのアプリケーションをどのように構成したかと、ユーザーがどのような方法で SGD にログインしたかによって決まります。

- 「再開不可能」に構成されたアプリケーションは、SGD Client が終了するか閉じられると終了します。一般に、1 回に短い時間使用するだけで、業務上重要な機能でないアプリケーションは、再開不能に構成されます。

- ・「常に再開可能」または「ログアウト時まで再開可能」に構成されたアプリケーションは、SGD Client が終了するか閉じられたあとも、ある一定期間実行し続けます。単にブラウザを再起動してから SGD にふたたびログインし、動作中のアプリケーションを再開します。
- ・SGD に匿名でログインした場合、つまりユーザー名とパスワードを入力しなかった場合、あるいは共有 Webtop (複数のユーザーが同じユーザー名とパスワードを使ってログインする Webtop) を使用している場合は、SGD Client が終了するか閉じられると、アプリケーションは終了します。なぜなら、どちらの場合もユーザーが一意的なユーザー名とパスワードを使用しないために、SGD に再度ログインしたユーザーが以前と同じユーザーかどうかを SGD が判断できないからです。「ユーザー名」も参照してください。

1.3.3. アプリケーションの表示方法の変更

SGD 管理者が、アプリケーションのデスクトップ上での表示方法を定義します。たとえば、アプリケーションがフルスクリーン表示されるかそれともデスクトップウィンドウ内に表示されるか、などです。

デスクトップウィンドウ内に表示されるグラフィカルアプリケーションは、ウィンドウのサイズに合わせて拡大縮小することができます。ウィンドウのサイズを変更すると、SGD によって新しいウィンドウのサイズに合わせてアプリケーションが再度拡大縮小され、スクロールバーは表示されません。

Scroll Lock キーを押すことで、アプリケーションの拡大縮小の有効化/無効化を切り替えることができます。

アプリケーションがスケーラブルウィンドウに表示されているかどうかを調べるには、Webtop 上のリンクにマウスポインタを移動して、表示されるポップアップを確認します。あるいは、ウィンドウ下部のステータスバーを確認します。

1.3.4. アプリケーション間での情報のコピー

Windows アプリケーションおよび X アプリケーションでは、コピー元のアプリケーションで通常の方法でコピーしてから、コピー先のアプリケーションで通常の方法でペーストします。アプリケーションによっては、情報のコピー&ペーストが許可されない場合があります。この動作は、SGD 管理者により構成されます。アプリケーション間のコピー&ペーストが許可されない場合、コピーした情報の代わりに次のメッセージがペーストされます。

Oracle Secure Global Desktop Software: Copied data not available to this application

文字型アプリケーションの場合、マウスの右ボタンでクリックしてから、「コピー」または「ペースト」を適切にクリックします。テキストのカラムを選択するには、Shift キーを押しながらテキストを選択します。

タイプの異なるアプリケーション間で情報をコピーできます。たとえば、アプリケーションサーバー上で実行している xterm から、コンピュータ上で実行しているテキストエディタにコピーできます。

グラフィックスのコピー&ペーストは、Windows のアプリケーションでのみ可能です。

1.3.5. 異なるユーザー名とパスワードによるアプリケーションの実行

あるアプリケーションを起動する際にユーザー名とパスワードの入力を SGD に要求させるには、Shift キーを押しながら、Webtop 上のそのアプリケーションのリンクをクリックします。

このようにユーザー名とパスワードの入力を SGD に要求させることは、SGD ではアプリケーションサーバー用にすでに保存されているユーザー名およびパスワードが使用されないということを意味します。別のユーザーとしてアプリケーションを起動したい場合に役立ちます。

「このパスワードを保存」チェックボックスが選択された場合、新しいユーザー名とパスワードが保存され、このアプリケーションサーバー上にそれまで保存されていたユーザー名とパスワードは置き換えられます。このユーザー名とパスワードは、このアプリケーションサーバー上で起動する他のすべてのアプリケーションに使用されます。

Shift キーを押すことは、SGD に匿名ユーザーまたは共有ユーザーとしてログインしている場合は効果がありません。

1.3.6. 1 つボタンの Apple Macintosh マウスの使用

多くの Microsoft Windows アプリケーションおよび X アプリケーションは、マウスの中ボタンやマウスの右ボタンを使用します。このようなアプリケーションを 1 つボタンの Apple Macintosh マウスで使用するには、キーボード上の次のいずれかのキーを押しながらボタンをクリックします。

- マウスの中ボタンをクリックする代わりに、Alt キーを押しながらマウスのボタンをクリックします
- マウスの右ボタンをクリックする代わりに、Command キーを押しながらマウスのボタンをクリックします



ヒント

コンピュータの X11 の環境設定で 3 ボタンマウスのエミュレーションが有効になっていることを確認してください。

1.4. 印刷

SGD では、アプリケーションから、コンピュータに接続されたプリンタに印刷できます。

通常、印刷に使用するプリンタを選択できます。ただし、一部のアプリケーションでは、デフォルトのプリンタにしか印刷できない場合があります。

1.4.1. 印刷ジョブの管理

印刷ジョブの管理には、Webtop の印刷領域を使用します。印刷領域には、印刷キュー内の現在のジョブ数、および印刷ジョブの管理用コントロールが表示されます (図1.15 「SGD Webtop の印刷領域」を参照)。

図1.15 SGD Webtop の印刷領域



ドキュメントが印刷中である場合、印刷キュー内の印刷ジョブの個数が Webtop 上に表示されます。

印刷を一時的に停止するには、「一時停止」リンクをクリックします。印刷が一時停止されると、図1.16 「印刷一時停止アイコン」に示すようにプリンタアイコンの表示が変わります。

図1.16 印刷一時停止アイコン





印刷を一時停止した場合、保留中の印刷ジョブはすべて、ユーザーが印刷を取り消すか再開するまで印刷キュー内に保持されます。

一時停止した印刷を再開するには、「再開」リンクをクリックします。

印刷ジョブをすべて削除するには、「すべて取消し」リンクをクリックします。

印刷ジョブを個別に管理するには、「すべてのジョブのリスト」ボタンをクリックします。Webtop に、キュー内のすべての印刷ジョブの一覧とそれらの各ジョブの情報が表示されます。たとえば、コピー枚数や使用するプリンタなどです。

印刷を一時停止した場合は、 をクリックすると、その印刷ジョブだけが印刷されます。

印刷ジョブを取り消すには、 をクリックします。

1.4.2. UNIX プラットフォームアプリケーションからの印刷

SGD では、UNIX プラットフォームアプリケーションから、コンピュータに接続されたプリンタに印刷できます。

1.4.2.1. UNIX プラットフォームアプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷

アプリケーションサーバー上の端末ウィンドウから、デフォルトプリンタにファイルを印刷するには、次のコマンドを入力します。

```
$ lp file
```

あるいは、SGD 管理者が構成した任意のクライアントプリンタを指定することもできます。

たとえば、[salesprinter](#) という名前のクライアントプリンタが SGD 管理者によって構成されている場合、次のコマンドを使用できます。

```
$ lp -d salesprinter file
```

1.4.2.2. UNIX プラットフォームアプリケーションから Windows コンピュータへの印刷

次のコマンドを実行すると、[file](#) が Windows コンピュータ上のデフォルトプリンタに印刷されます。

```
$ lp file
```

コンピュータ上のあるポートに印刷することもできます。次に例を示します。

```
$ lp -d LPT1: file
```

また、コンピュータからアクセス可能なネットワークプリンタの UNC (Universal Naming Convention) 名を指定して印刷することもできます。UNC 名を使用するには、プリンタ名を引用符で囲み、シェルに応じた方法でバックslash シュをエスケープする必要があります。次に例を示します。

```
$ lp -d '\\PRTSERVER\\HPLJ5' file
```

UNC 名の問題を回避するには、次のような「フレンドリ」な名前を使って印刷します。

```
$ lp -d label-printer file
```

この場合、SGD 管理者によってこのフレンドリな名前が構成されている必要があります。

1.4.3. Windows アプリケーションからの印刷

SGD では、Windows アプリケーションから、コンピュータに接続されたプリンタに印刷できます。

1.4.3.1. Windows アプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷

Microsoft Windows アプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームコンピュータへの印刷を行うと、SGD 管理者によって構成されたクライアントプリンタが表示されます。

ユーザー独自のクライアントプリンタを構成する方法の詳細については、「[クライアントプリンタの構成](#)」を参照してください。

1.4.3.2. Windows アプリケーションから Windows コンピュータへの印刷

Microsoft Windows アプリケーションから Microsoft Windows コンピュータへの印刷を行うと、クライアントに接続されたプリンタの一部またはすべてが表示されるか、まったく表示されません。さらに、アプリケーションサーバーに直接接続されたプリンタも表示されます。

1.4.4. PDF 印刷

SGD は、PDF 印刷を使用することもできます。その場合、Adobe PDF 形式を使用することでプリンタドライバの問題の多くが避けられます。

SGD には、Universal PDF プリンタと Universal PDF ビューアという 2 つの PDF プリンタがあります。

Microsoft Windows コンピュータでは、「Universal PDF Printer」プリンタは、印刷ジョブを Adobe Reader 内の PDF ファイルとして表示します。この PDF ファイルはデフォルトプリンタで印刷されます。「Universal PDF Viewer」プリンタは、印刷ジョブを Adobe Reader 内の PDF ファイルとして表示します。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータでは、「Universal PDF Printer」プリンタと「Universal PDF Viewer」プリンタに違いはありません。印刷ジョブは常に PDF ビューア内の PDF ファイルとして表示されます。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

1.4.4.1. PDF 印刷の使用

Windows アプリケーションから通常の方法で印刷を実行し、アプリケーションの「印刷」ダイアログボックスで「Universal PDF Printer」または「Universal PDF Viewer」を選択します。

UNIX または Linux プラットフォームのアプリケーションサーバー上で実行されているアプリケーションから印刷するには、印刷コマンドの一部として PDF プリンタを指定しながら通常の方法で印刷します。次に例を示します。

```
$ lp -d "Universal PDF Printer" file
```

```
$ lpr -P "Universal PDF Viewer" file
```

file は PostScript ファイルである必要があるため、アプリケーションが PostScript を出力できる必要があります。

Windows コンピュータでは、PDF ファイルは Adobe Reader に表示されます。ユーザーが選択するプリンタに応じて、次のいずれかが適用されます。

- 「Universal PDF プリンタ」プリンタが選択されている場合、PDF ファイルは自動的にデフォルトプリンタで印刷されます。Adobe Reader は最小化された状態で実行され、印刷ジョブが完了しても終了しません。
- 「Universal PDF ビューア」プリンタが選択されている場合、PDF ファイルは Adobe Reader のウィンドウに表示されます。ユーザーは、このファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータでは、PDF ファイルは PDF ビューアに表示されます。ユーザーは、PDF ファイルを印刷するかまたは保存するかを決定できます。印刷ジョブは常に PDF ビューアに表示されるため、「Universal PDF プリンタ」プリンタと「Universal PDF ビューア」プリンタに違いはありません。

1.4.5. 印刷のトラブルシューティング

アプリケーションから印刷しても出力されない場合には、次の表を使用して、考えられる原因について検討してください。

考えられる原因	詳細情報
印刷を一時停止しましたか。	Webtop 上に印刷が一時停止されていることを示す情報がないことを確認します。図1.16「印刷一時停止アイコン」を参照してください。
プリンタは正しく設定されていますか。	プリンタが正しく設定されているか確認します。それにはたとえば、ブラウザから Web ページをプリンタに印刷します。
適切なプリンタに対して印刷を実行しましたか。	印刷先のプリンタを選択できます。プリンタを選択しない場合、出力はデフォルトのプリンタに送信されます。 どのプリンタがデフォルトプリンタであるかを確認するには、Webtop 上のプリンタアイコンをポイントします。デフォルトプリンタの名前を示すメッセージが表示されます。 デフォルトプリンタを変更するには、SGD からいったんログアウトしてデフォルトプリンタを変更したあと、SGD に再度ログインする必要があります。
「利用可能なクライアントプリンタなし」というメッセージが表示されますか？	Webtop に「利用可能なクライアントプリンタなし」というメッセージが表示されていないこと、およびプリンタアイコンに赤い×印が付

考えられる原因	詳細情報
	<p>いていないことを確認します。これは SGD が、使用しているコンピュータまたはプリンタでの印刷をサポートしていないことを示しています。</p> <p>SGD 管理者は、印刷を可能にすることができます。</p>

上記のいずれによっても印刷の問題を解決できない場合は、SGD 管理者に連絡してください。

1.5. 設定の変更

次の設定を構成するには、アプリケーション領域の「編集」ボタンをクリックします。

- クライアント設定
- アプリケーショングループ

1.5.1. クライアント設定

SGD Client が起動するたびに、プロファイルが使用されます。プロファイルとは、SGD Client を制御する一連の構成設定のことです。プロファイルの設定により、次の内容が定義されます。

- SGD Client が SGD サーバーに接続する方法。たとえば、接続先の URL や使用するプロキシサーバー。
- SGD Client が動作する方法。たとえば、SGD サーバーとの接続が失われた場合の動作。

接続する SGD サーバーごとにプロファイルを 1 つ割り当てることができます。

利用可能なクライアント設定については、[付録C プロファイルの設定](#)を参照してください。

1.5.1.1. プロファイルの編集

プロファイルを編集できるのは、ユーザーによってそれが可能になるように SGD 管理者が SGD を構成している場合に限られます。

プロファイルの編集は、Webtop 上でのみ行えます。Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックして、「クライアントの設定」タブをクリックします。

編集できるプロファイルは、自分のプロファイルだけです。また、現在接続している SGD サーバーのプロファイルだけを編集できます。

プロファイルを最初に編集するときには、設定は SGD 管理者が構成した内容になります。

プロファイルをシステムのデフォルト設定に戻すには、「リセット」ボタンをクリックします。



注記

プロファイルに加えた変更を有効にするには、SGD からログアウトしてから再度ログインする必要があります。

1.5.2. アプリケーショングループ

実行可能なアプリケーションのリストにアプリケーションの追加や削除を実行できるのは、SGD 管理者だけです。ただし、アプリケーションを Webtop にいつ、どのように表示するかを選択することは可能です。これを行うには、グループを作成します。

グループは、類似のアプリケーションをグループにまとめたり、使用頻度があまり多くないアプリケーションを隠したりする場合に役立ちます。グループは、工夫次第でさまざまな用途に利用できます。

1.5.2.1. グループを作成する方法

1. Webtop の「編集」ボタンをクリックします。

2. 「グループの編集」タブをクリックします。
3. 「新規グループの追加」ボタンをクリックします。

グループの名前を入力します。

「コンテンツの選択」で、グループに含めるアプリケーションおよびドキュメントのチェックボックスを選択します。

4. グループの表示オプションを設定します。

アプリケーションおよびグループを Webtop から隠すには、「ログイン時にこのグループを Webtop に表示する」の横のチェックボックスを選択解除します。

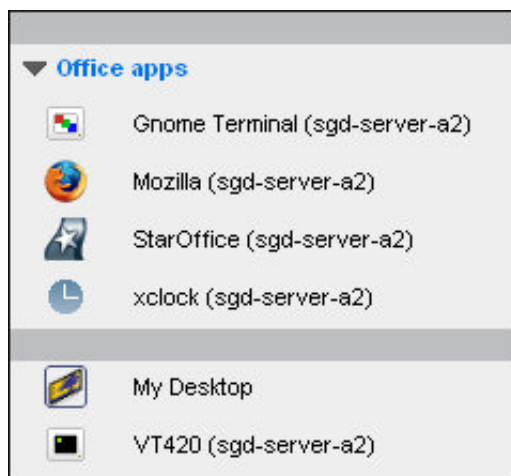
初回ログイン時に、グループの内容を隠してグループ名だけが表示されるようにするには、「ログイン時にこのグループのコンテンツを表示する」の横のチェックボックスの選択を解除します。

図1.17 「グループの編集」タブによる新しいグループの作成

5. 「グループの保存」ボタンをクリックします。
6. 「アップデート」ボタンをクリックします。

作成した Webtop グループの名前は、Webtop 上に表示されます。

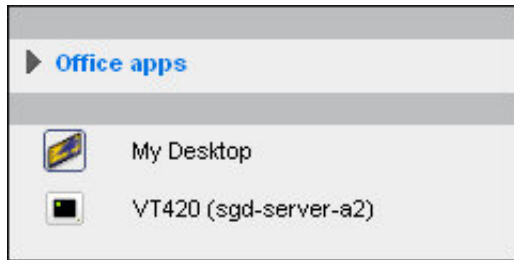
図1.18 Webtop 上に表示されたグループ。グループのコンテンツが表示された状態



どのアプリケーションがグループに含まれるかを示す区切り線も表示されます。

7. グループ内のアプリケーションの表示/非表示を切り替えるには、三角形をクリックします。

図1.19 Webtop 上に表示されたグループ。グループのコンテンツが隠された状態



必要な数だけグループを追加できます。グループの変更や削除は、いつでも実行できます。変更を加えたあとで、「アップデート」をクリックする必要があります。

1.6. My Desktop の使用

My Desktop は、Webtop を表示せずに、ログインして全画面デスクトップアプリケーションを表示できるようにする機能です。

My Desktop には、SGD 管理者がユーザーに対して構成したデスクトップアプリケーション (Microsoft Windows デスクトップなど) が表示されます。

My Desktop を起動するには、SGD Web サーバーの開始画面 <https://server.example.com> で「My Desktop」リンクをクリックします。このリンクを開くと、SGD のログインページが表示されます。一度ログインすると、My Desktop の全画面デスクトップアプリケーションが表示されます。

My Desktop を起動するもう 1 つの方法は、<https://server.example.com/sgd/mydesktop> にアクセスすることです。

My Desktop を起動したあとは、ブラウザウィンドウを閉じてかまいません。



注記

My Desktop アプリケーションを中断または再開することはできません。デスクトップアプリケーションから通常どおりにログアウトする必要があります。

印刷ジョブを一時停止した場合、ログイン時に、印刷を再開できるようにするメッセージがブラウザウィンドウに表示されます。

1.7. SGD Webtop からのログアウト

ブラウザを閉じる前に、必ず SGD からログアウトしてください。

Webtop 上の「ログアウト」ボタンをクリックし、確認を要求されたら「了解」をクリックします。図1.20 「Webtop 上の「ログアウト」ボタン」を参照してください。

図1.20 Webtop 上の「ログアウト」ボタン



付録A SGD Client の手動インストール

Java テクノロジが使用可能でないブラウザで オラクル Secure Global Desktop (SGD) を使用するには、SGD Client を手動でダウンロードしてコンピュータにインストールする必要があります。その後、SGD Client を手動で起動し、SGD サーバーに接続されるように構成します。

A.1. SGD Client のインストール

通常は、Java テクノロジを有効にしたブラウザを使ってユーザーが SGD サーバーに接続すると、SGD Client が自動的にインストールされます。SGD Client を手動でインストールする場合にだけ、ここで説明する手順に従ってください。

SGD Client を手動でインストールする場合、次のデフォルトの場所が使用されます。ただし、ソフトウェアをインストールするときに別のインストールディレクトリを選択できます。

- Microsoft Windows プラットフォーム: [C:\Program Files\Oracle\Secure Global Desktop Client\clients](#)

SGD Client のショートカットが Windows 「スタート」メニューに追加されます。

- UNIX および Linux プラットフォーム: [\\$HOME/Oracle Secure Global Desktop/clients](#)
- Mac OS X プラットフォーム: [\\$HOME/Applications/Oracle Secure Global Desktop](#)

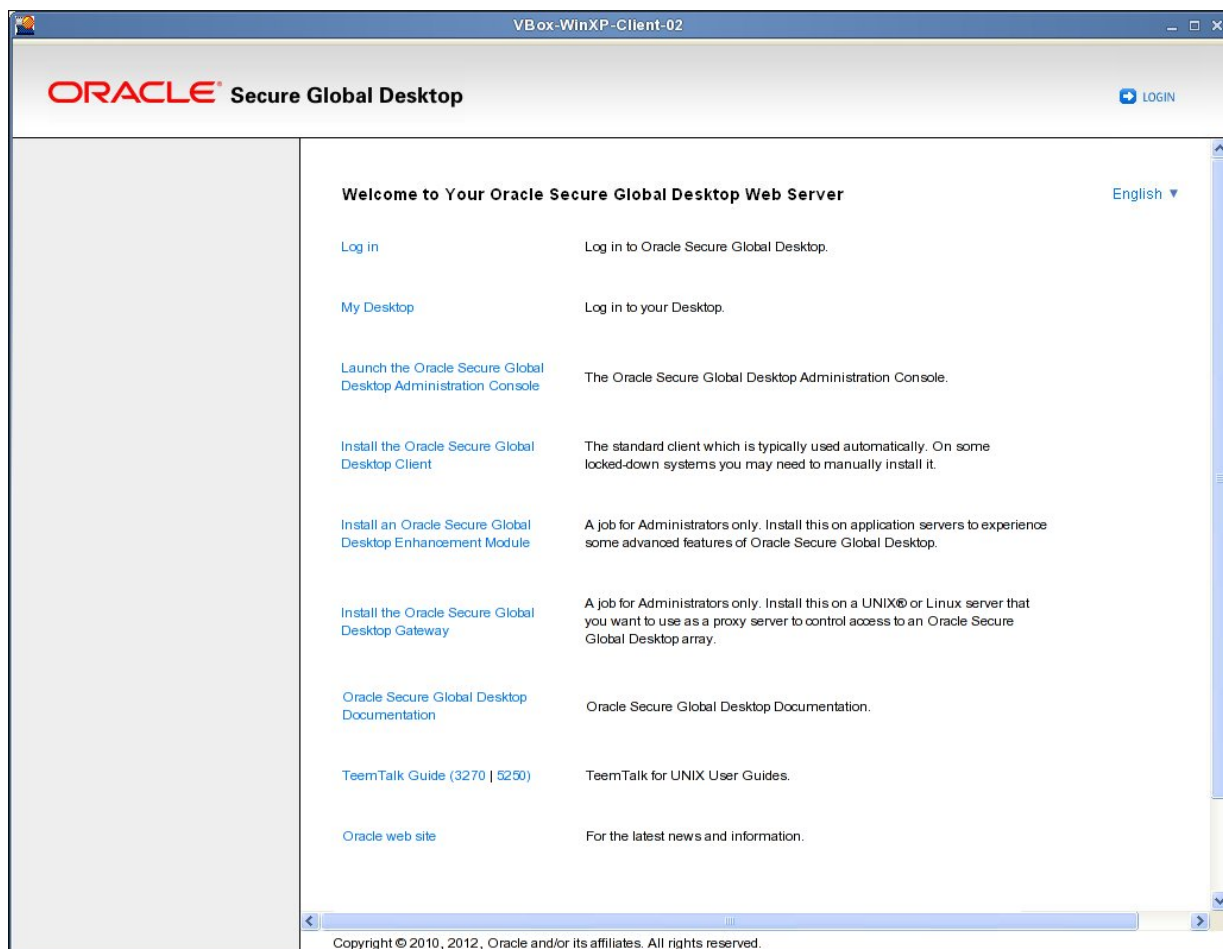
A.1.1. Microsoft Windows プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法

1. ブラウザで、SGD Web サーバーにアクセスします。

たとえば、<https://server.example.com> と指定します。

図A.1 「SGD の開始画面」 に示すように、SGD Web サーバーの開始画面が表示されます。

図A.1 SGD の開始画面



2. (オプション) 使用する言語を選択します。

言語リストから言語を選択します。

開始画面が選択した言語で表示されます。

3. 「オラクル Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。

オラクル Secure Global Desktop のページが表示されます。

4. SGD Client インストールプログラムをダウンロードします。

「Secure Global Desktop Client for Microsoft Windows のダウンロード」をクリックします。

PC 上の一時ディレクトリにインストールプログラムを保存します。

SGD Client インストールプログラムは `sgdcwin-lang.msi` です。ここで、`lang` は選択した言語です。

5. 一時ディレクトリに移動し、SGD Client をインストールします。

`sgdcwin-lang.msi` をダブルクリックし、画面に表示される指示に従います。

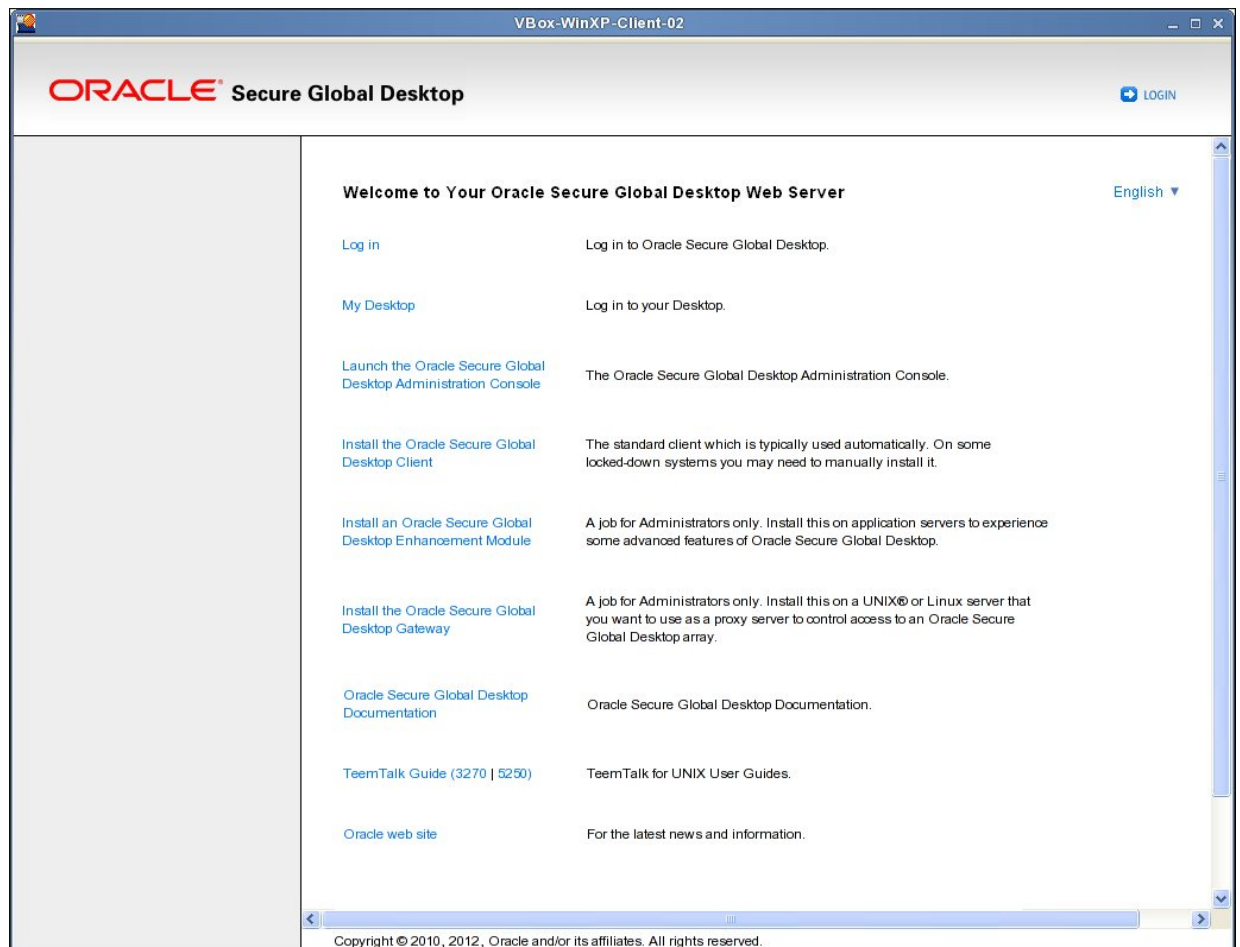
A.1.2. Oracle Solaris プラットフォームおよび Linux プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法

1. ブラウザで、SGD Web サーバーにアクセスします。

たとえば、<https://server.example.com> と指定します

図A.2「SGD の開始画面」に示すように、SGD Web サーバーの開始画面が表示されます。

図A.2 SGD の開始画面



2. (オプション) 使用する言語を選択します。

言語リストで言語をクリックします。

開始画面が選択した言語で表示されます。

3. 「オラクル Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。

「オラクル Secure Global Desktop Client」ページが表示されます。

4. SGD Client の tar ファイルをダウンロードします。

「[platform](#) 版の Secure Global Desktop Client のダウンロード」をクリックします。ここで、[platform](#) は使用しているコンピュータプラットフォームのオペレーティングシステムです。

コンピュータ上の一時ディレクトリに tar ファイルを保存します。

tar ファイルの名前は、次のようにプラットフォームを示しています。

- [sgdci3so.tar](#) (x86 プラットフォーム版 Oracle Solaris の場合)
- [sgdcspso.tar](#) (SPARC テクノロジプラットフォーム版 Oracle Solaris の場合)
- [sgdci3li.tar](#) (Linux プラットフォームの場合)

5. 一時ディレクトリに移動し、tar ファイルを展開します。

```
$ cd /tmpdir  
$ tar xvf tarfile
```

6. SGD Client をインストールします。

```
$ sh sgdci/install
```

画面に表示される指示に従ってください。

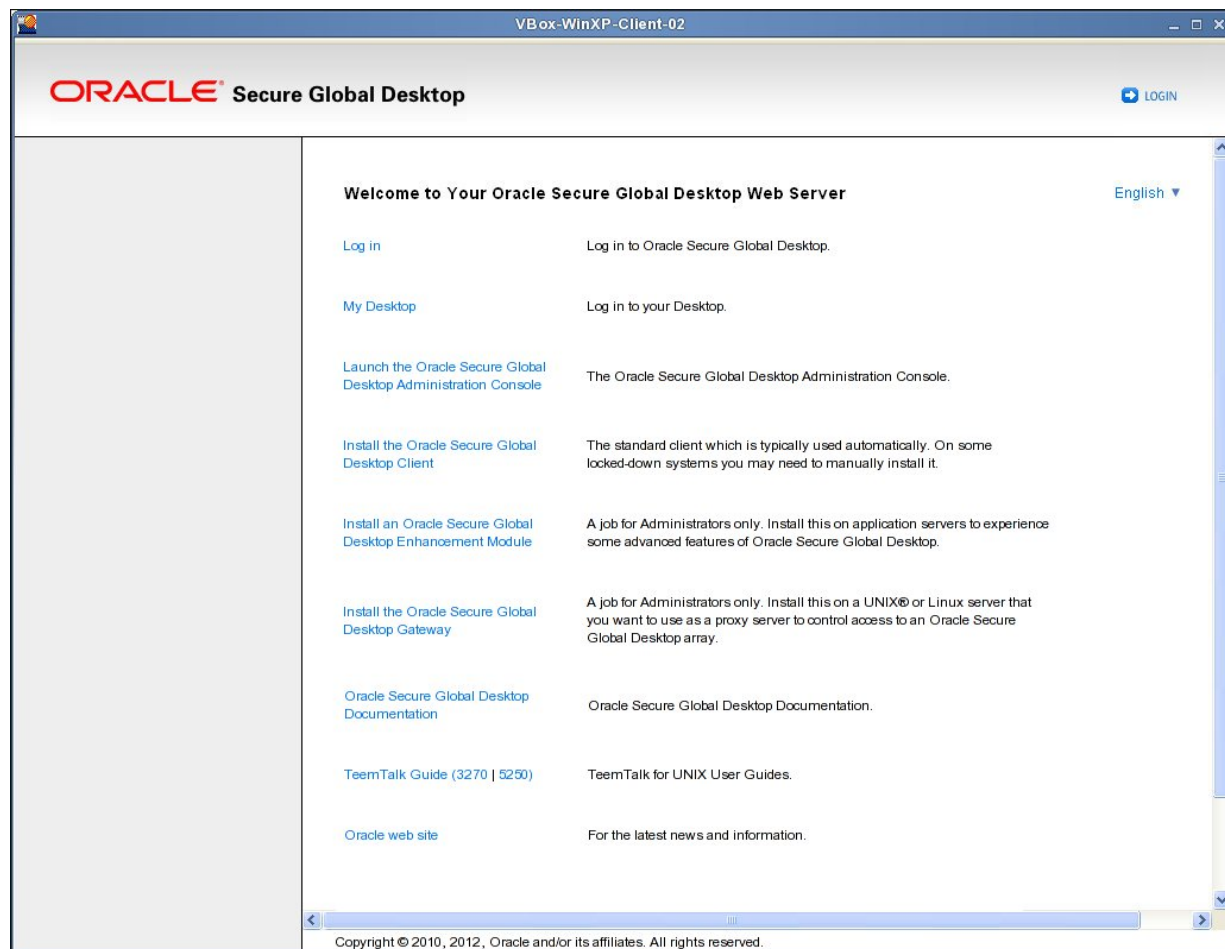
A.1.3. Mac OS X プラットフォームに SGD Client を手動でインストールする方法

1. ブラウザで、SGD Web サーバーにアクセスします。

たとえば、<https://server.example.com> と指定します

図A.3「SGD の開始画面」に示すように、SGD Web サーバーの開始画面が表示されます。

図A.3 SGD の開始画面



2. (オプション) 使用する言語を選択します。

言語リストで言語をクリックします。

開始画面が選択した言語で表示されます。

3. 「Oracle Secure Global Desktop Client のインストール」をクリックします。

「Oracle Secure Global Desktop Client」ページが表示されます。

4. SGD Client インストールプログラムをダウンロードします。

「Mac OS X 版の Secure Global Desktop Client のダウンロード」をクリックします。

Mac 上の一時ディレクトリにインストールプログラムを保存します。

SGD Client インストールプログラムは [OracleSecureGlobalDesktopClient.dmg](#) です。

5. 一時ディレクトリに移動し、SGD Client をインストールします。

[Oracle Secure Global Desktop Client.dmg](#) をダブルクリックしてインストーラディスクイメージを開きます。

表示されるウィンドウで、[Oracle Secure Global Desktop Client.mpkg](#) パッケージをダブルクリックして SGD Client をインストールします。

画面に表示される指示に従ってください。

A.2. SGD Client の起動

UNIX プラットフォームと Linux プラットフォームの場合は、SGD Client を `ttatcc` コマンドで手動で起動します。

Mac OS X プラットフォームの場合は、Oracle Secure Global Desktop Client アプリケーションアイコンをクリックします。

Microsoft Windows プラットフォームの場合は、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Oracle Secure Global Desktop」→「Oracle Secure Global Desktop Client」をクリックして、SGD Client を手動で起動します。

A.2.1. SGD Client を構成する方法

SGD Client の初回起動時に、次の情報を入力するよう求められます。

- 接続先の SGD サーバーの URL。これは通常 <https://server.example.com/sgd> で、[server.example.com](#) は SGD サーバーの名前です。
- 使用するプロキシ設定。デフォルトのブラウザから設定を引き継ぐことも (Java テクノロジーが必要)、自分で設定を入力することもできます。

1. SGD Client をはじめて起動します。

- UNIX および Linux プラットフォームの場合:

```
$ cd $HOME/Oracle Secure Global Desktop/clients/arch/version
$ sh ttatcc
```

ここで、[arch](#) はクライアントのアーキテクチャーで [version](#) は SGD Client のバージョンです。

- Mac OS X プラットフォームの場合:

[\\$HOME/applications/Oracle Secure Global Desktop/version](#) フォルダに移動します。ここで、[version](#) は SGD Client のバージョンです。

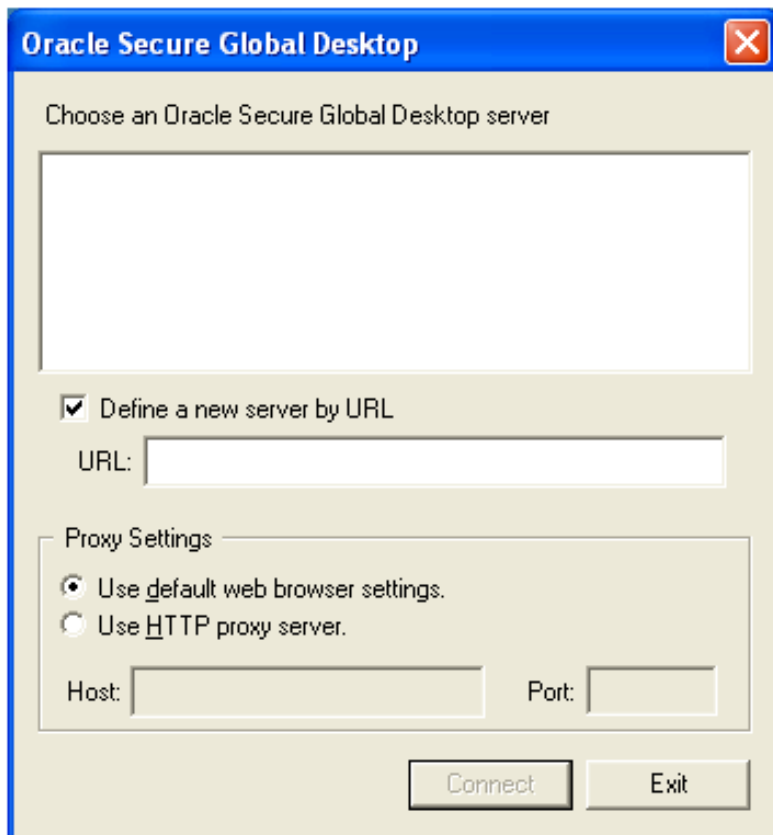
Oracle Secure Global Desktop Client アプリケーションアイコンをクリックします。

- Microsoft Windows プラットフォームの場合:

「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「オラクル Secure Global Desktop」 → 「オラクル Secure Global Desktop Client」をクリックします。

「クライアント接続設定」ダイアログボックスが表示されます。図A.4 「「クライアント接続設定」ダイアログボックス」を参照してください。

図A.4 「クライアント接続設定」ダイアログボックス



注記

Microsoft Windows プラットフォームの場合、「クライアント接続設定」ダイアログボックスは、「スタート」メニューのリンクを使用して SGD Client を起動するたびに表示されます。他のすべてのプラットフォームでは、SGD Client をはじめて起動したときのみこのダイアログボックスが表示されます。これらのプラットフォームで「クライアント接続設定」ダイアログボックスを再表示する必要がある場合、`-prompt` コマンドオプションを使用します。

2. SGD サーバーの URL を入力します。

<https://server.example.com> などの完全指定のドメイン名を常に使用します。`server` や `server.example` などの短縮名を使用しないでください。

3. 「Proxy Settings」のオプションを選択します。

「Use HTTP Proxy Server」オプションを選択した場合は、提供されたフィールドにプロキシサーバーのホスト名とポートを入力します。

4. 「接続」ボタンをクリックして SGD サーバーに接続します。

デフォルトのブラウザが読み込まれ、SGD ログインダイアログが表示されます。

5. SGD にログインします。

SGD ログインダイアログで、SGD のユーザー名とパスワードを入力します。「ログイン」ボタンをクリックして SGD にログインします。

6. SGD からログアウトします。

SGD Webtop メニューバー上の「ログアウト」ボタンをクリックします。

ユーザーが入力したクライアント接続設定は、SGD Client によって、この SGD サーバーへの後続のすべての接続で使用されます。

付録B 詳細構成

この付録には、オラクル Secure Global Desktop (SGD) の上級ユーザー向けの構成情報が含まれています。

詳細構成の内容は、次のとおりです。

- 「クライアント設定」
- 「印刷」
- 「コンピュータ上のドライブへのアクセス」

B.1. クライアント設定

SGD Client の次の設定の一部を変更できます。

- ログインページの URL
- 言語
- プロキシ設定
- PDF ビューア

「クライアントの設定」タブを表示するには、Webtop のアプリケーション領域にある「編集」ボタンをクリックします。ユーザーが編集できるのは、現在接続されている SGD サーバーに対するクライアント設定だけです。



注記

ユーザー独自のクライアント設定の変更をユーザーに許可するかどうかは、SGD 管理者が決定します。

B.1.1. ログインページの URL の変更

SGD サーバー上のログインページの場所を指定するには、「ログイン URL」設定を使用します。

ログイン URL は通常、<https://server.example.com/sgd/index.jsp> です。ここで、server.example.com は SGD サーバーの名前です。

B.1.2. 言語の変更

ログインページや画面上のメッセージで使用される言語を指定するには、「言語の選択」設定を使用します。

B.1.3. プロキシ設定の変更

SGD Client によって使用されるプロキシサーバーを指定するには、「クライアントの設定」タブの「プロキシ」セクションの設定を使用します。

デフォルト設定では、ブラウザと同じプロキシサーバー設定を使用するようになっています。しかし、HTTP プロキシサーバーの手動設定を入力することもできます。

B.1.4. 代替 PDF ビューアの指定

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータ上で PDF ファイルを印刷する場合、その PDF ファイルは通常、そのコンピュータのデフォルトの PDF ビューアを使って表示されます。

これをオーバーライドするには、「代替 PDF ビューア」設定に別の PDF ビューアを指定します。代替 PDF ビューアのアプリケーションコマンドを入力します。アプリケーションが [PATH](#) 上に存在しない場合は、アプリケーションのフルパス名を入力します。

B.2. 印刷

UNIX、Linux、または Mac OS X コンピュータを使用している場合は、SGD 管理者による設定をオーバーライドし、そのコンピュータ上のプリンタを構成できます。

B.2.1. クライアントプリンタの構成

SGD 管理者は通常、ユーザーが使用できるクライアントプリンタを構成します。しかし、UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのコンピュータから印刷を行う場合は、そうした設定をオーバーライドし、ユーザー独自のクライアントプリンタを構成することができます。そうするには、ホームディレクトリ内のクライアントプリンタ構成ファイル `$HOME/.tarantella/printerinfo.txt` 内で、それらを定義します。このファイルはデフォルトではインストールされません。このファイルを作成するか、あるいはインストールおよび編集可能なテンプレートファイルを SGD 管理者から入手する必要があります。

プリンタ構成ファイルの形式は次のとおりです。

```
[UNIX]
"printer_name"="windows_driver" printer_type
"printer_name"="windows_driver" printer_type...
```

`printer_name` は、コンピュータ上の `lp` または `lpr` システムに認識されているプリンタの名前です。

`windows_driver` は、Microsoft Windows アプリケーションサーバーから印刷を行う場合に使用するプリンタドライバの名前です。

`printer_type` は、印刷ジョブに使用される形式です。有効な値は PostScript、PCL、Text です。

クライアントプリンタ構成ファイルの例は、次のとおりです。

```
[UNIX]
"drafts"="HP DeskJet 970Cxi" PCL
"salesprinter"="HP LaserJet 5/5M" PostScript
```

ここでは、2 つのクライアントプリンタ `drafts` と `salesprinter` が定義されています。この場合、次のコマンドを使えば、UNIX プラットフォームアプリケーションから `salesprinter` に印刷できます。

```
$ lp -d salesprinter file
```

B.3. コンピュータ上のドライブへのアクセス

SGD 管理者は、SGD 経由で実行中のアプリケーションから使用しているコンピュータ上のドライブにアクセスできるようにするかどうかを構成します。

UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのコンピュータを使用している場合は、デフォルトで、ホームディレクトリが「My Home」と呼ばれるドライブにマップされます。しかし、ユーザーはアプリケーションで使用するドライブを設定できます。そうするには、クライアント構成設定ファイル `$HOME/.tarantella/native-cdm-config` を編集します。このファイルは、SGD Client のインストール時に自動的に作成されます。このファイルには、マップされたドライブの作成方法に関する詳細な手順が含まれています。

この設定ファイルには、`<path> <type> <label>` という形式のエントリが含まれます。ここで、各要素は次のとおりです。

- `<path>` は、クライアントファイルシステムの絶対パス名です
- `<type>` は、unknown、fixed、floppy、cdrom、remote のいずれかです
- `<label>` は、アプリケーションセッションで使用される名前です

ドライブごとに改行し、フィールド間は空白かタブで区切ります。空白やタブを含む `<path>` フィールドまたは `<label>` フィールドは、引用符で囲みます。

`<path>` フィールドと `<label>` フィールドでは、環境変数を使用できます。それらはドル記号 (\$) で区切ります。リテラルの \$ を使用するには、それをもう 1 つの \$ でエスケープします。

設定ファイルの例を、次に示します。

```
[CDM]
$HOME$ fixed "My Home"
/tmp/$USER$ fixed Temp
"/mnt/win/My Documents" fixed "My Local Documents"
[/CDM]
```



注記

構成ファイルに加えた変更は、いったんログアウトしてから SGD にログインするまで有効になりません。

マップされたクライアントドライブのアクセス権は、ドライブ名のあとの括弧内に示されます。(rw) は読み取り/書き込みアクセス権を意味し、(ro) は読み取り専用アクセス権を意味します。

B.3.1. 取り外し可能ドライブの使用

SGD の使用中に USB (Universal Serial Bus) メモリースティックなどの取り外し可能ドライブを取り付けると、そのデバイスは自動的に検出され、使用できる状態になります。

取り外し可能ドライブを使用するには、SGD 管理者が取り外し可能ドライブのサポートを有効にする必要があります。

UNIX および Linux プラットフォームのクライアントデバイスでは、取り外し可能デバイスが自動的に検出されない場合、取り外し可能デバイスがないか、[\\$HOME/.tarantella/native-cdm-config](#) 構成ファイルの [\[DYNAMICSTORAGE\]](#) セクションに一覧表示されている場所が監視されます。クライアントプラットフォームに応じて、次のデフォルトのシステムの場所が、このファイルの [\[DYNAMICSTORAGE\]](#) セクションに一覧表示されます。

クライアントプラットフォーム	デフォルトの場所	タイプ
Linux	/media	removable
Oracle Solaris	/rmdisk	removable
	/cdrom	cdrom
Sun Ray	\$DTDEVROOT/mnt	removable
Mac OS X	/Volumes	removable

取り外し可能ドライブが別の場所で使用されている場合は、[\[DYNAMICSTORAGE\]](#) セクションに 1 つまたは複数のエントリを追加します。たとえば、次のエントリを追加すると、SGD は、取り外し可能ドライブがないか、クライアントプラットフォームのデフォルトの場所に加えて、[/opt](#) ディレクトリも監視するようになります。

```
[DYNAMICSTORAGE]
...
/opt removable
[/DYNAMICSTORAGE]
```


付録C プロファイルの設定

この付録では、プロファイルで構成可能な項目について説明します。

C.1. プロファイル設定の説明

SGD Client が起動するたびに、プロファイルが使用されます。プロファイルとは、SGD Client を制御する一連の構成設定のことです。

表C.1「SGD Client 向けのプロファイル設定」で、プロファイルで使用可能な設定とその機能について説明します。

設定に関して不明な点がある場合は、SGD 管理者に問い合わせてください。

表C.1 SGD Client 向けのプロファイル設定

設定	説明
ログイン URL	<p>プロファイルに使用する SGD URL。これは通常 https://server.example.com/sgd で、server.example.com は SGD サーバーの名前です。</p> <p>ブラウザを使って SGD Webtop を表示する場合は、デフォルトのブラウザにこの URL が自動的にロードされ、Webtop にログインしてアクセスできる状態になります。</p> <p>デフォルトのログイン URL は、https://server.example.com/sgd/index.jsp です。</p>
代替の PDF ビューア	<p>PDF 印刷で使用する代替 PDF ビューア用のアプリケーションコマンド。</p> <p>アプリケーションが PATH に存在しない場合は、アプリケーションのフルパスを入力します。</p> <p>この設定が適用されるのは、UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータだけです。</p>
ロギング	<p>SGD Client ログファイルに出力される情報の量を制御します。</p> <p>Windows プラットフォーム上では、出力はユーザーのアプリケーションデータフォルダに記録されます。UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォーム上では、出力はシステムログの場所に記録されます。</p> <p>デフォルトは、「エラーのみ」です。</p>
言語の選択	<p>SGD Client がコマンド行から起動されたときに使用するデフォルト言語。</p> <p>選択された言語は、SGD Client、ログインダイアログ、および Webtop によって表示されるメッセージに使用されます。</p> <p>デフォルトは英語です。</p>
複数のモニターに広げる (キオスクモード)	<p>X アプリケーションをマルチヘッドモニターまたはデュアルヘッドモニターにキオスクモードで表示できるようにします。</p> <p>有効になっている場合は、キオスクモードの表示がすべてのモニターに広がります。</p> <p>無効になっている場合は、キオスクモードの表示がプライマリモニターのみを使用して表示されます。これはデフォルト設定です。</p>
クライアントポインタをワープすることをアプリケーションに許可	<p>アプリケーションがマウスポインタを制御できるようにします。</p>
クライアントキーボード配列の一致を試行	<p>有効になっている場合、SGD は、クライアントキーボードのロケールとキー配列を自動的に検出しようとします。</p>

設定	説明
	<p>一部のクライアントキーボードでは、これらの設定を手動で構成することが必要な場合もあります。「クライアントキーボード配列の一致を試行」の設定を無効にして、キーボードに適したレイアウトおよびロケールを構成してください。</p> <p>デフォルトでは、この設定が有効になっており、ほとんどのキーボードで適切に動作します。デフォルト設定の使用中に問題が発生する場合、SGD 管理者に連絡してください。</p>
プロキシ設定	<p>SGD Client によって使用するプロキシサーバーが決定される方法を制御する設定。</p> <p>デフォルトの Web ブラウザ設定を使用すると、デフォルトブラウザ内のプロキシサーバー設定が使用されます。</p> <p>手動プロキシ設定を使用すると、プロファイルにプロキシサーバー設定を定義できます。HTTP プロキシサーバーを指定できます。</p> <p>プロキシ設定がブラウザから決定されると、その設定は格納され、次回 SGD Client が起動したときに使用されます。</p> <p>「セッション開始時のプロキシ設定を確立」が有効になっている場合、SGD Client は、起動するたびにブラウザからプロキシ設定を取得します。保存済みのプロキシ設定は使用されません。</p> <p>デフォルトでは、「デフォルトの Web ブラウザ設定を使用する」チェックボックスが選択され、「セッション開始時のプロキシ設定を確立」チェックボックスは選択されていません。</p>
接続の失敗	<p>SGD サーバーへの接続が失われた場合の、SGD Client の動作を制御する設定 (常に再接続する、再接続しない、接続するかどうかを確認する、のいずれか)。</p> <p>SGD Client が再接続する場合、これらの設定は、再接続するための試行の回数と各試行の間隔 (秒単位) を制御します。</p> <p>SGD Client が再接続できない場合、Webtop セッションは終了し、実行中のアプリケーションは、事前の構成内容に応じて終了または中断します。</p> <p>デフォルトの設定は「常に再接続を試行する」で、試行回数は 6、間隔は 10 です。</p>
クリップボード同期	<p>SGD のクリップボード上のデータがクライアントデバイス上のクリップボードと同期される方法を制御する設定。</p> <p>Mac OS X などの一部のクライアントプラットフォームでは、SGD アプリケーションとの間でのコピーおよび貼り付けを構成するために、これらの設定を使用することが必要な場合もあります。</p> <p>CLIPBOARD 選択は、メニューオプションを使用してコピー&ペーストされるデータを指します。PRIMARY 選択は、強調表示およびマウスの中ボタンの使用によってコピー&ペーストされるデータを指します。</p> <p>これらの設定は、UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータにのみ適用されます。</p>
キーボードショートカット	<p>SGD アプリケーションで使用する次のキーボードショートカットを構成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「現在のデスクトップのスナップショット」: デスクトップ領域全体のスナップショットをクライアントのクリップボードに格納します。 「アクティブウィンドウのスナップショット」: アクティブウィンドウ領域のスナップショットをクライアントのクリップボードに格納します。

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 「全画面切り替え」: 全画面表示 (キオスクモード) 表示と独立ウィンドウ表示を切り替えます。 • 「ウィンドウに合わせて拡大縮小切り替え」: 「ウィンドウのサイズ: ウィンドウに合わせて拡大縮小する」属性が有効になっているアプリケーション専用。拡大縮小された表示と拡大縮小されていない表示を切り替えます。 • 「キオスクウィンドウのアイコン化」: アクティブウィンドウを最小化します。キオスクモードのアプリケーションにのみ適用されます。 <p>これらの設定は、UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームのコンピュータにのみ適用されます。</p>

付録D 用語集

A

アプリケーション

サーバー上で実行中のプログラム。SGD により、任意のコンピュータのブラウザを使用してアプリケーションにアクセスできます。

B

ブラウザ

SGD にアクセスするためにコンピュータ上で起動するソフトウェア。たとえば、Microsoft Internet Explorer や Mozilla Firefox。

L

リンク

Webtop 上のドキュメントおよびアプリケーションに対するアクセスを提供します。通常は、ラベルの付いたアイコンです。

P

パスワード

一式の秘密の文字列であり、ユーザー名と一緒にユーザーの ID をサーバーに対して証明します。サーバーごとに、別々のパスワードとユーザー名を設定することができます。

プロファイル

SGD Client を制御する一群の構成。

S

サーバー

ほかのコンピュータにサービスを提供するコンピュータまたはソフトウェア。SGD サーバーを使えば、Webtop を表示できます。Webtop 上に一覧表示されたアプリケーションを実行するサーバーも存在します。

SGD 管理者

SGD の構成、ユーザーの Webtop へのリンク配置、およびアプリケーションのセットアップができる人。

SGD サーバー

ブラウザを使ってユーザーの Webtop を表示するためにユーザーがログインする SGD ソフトウェア。

U

ユーザー名

サーバーがユーザーを識別するのに使う一意の名前。サーバー別に、別々のユーザー名を設定することができます。

W

Webtop

SGD にログインすると表示される特別な Web ページ。Webtop はアプリケーションへのアクセスを提供します。

索引

シンボル

「情報」ボタン, 7
アプリケーション
 Webtop に追加, 7
 インスタンス数, 8
 エラーメッセージ, 8
 グループ, 15
 中断, 9, 9
 再開, 9, 9
 印刷, 12, 13
 取り消し, 9
 実行, 8
 表示の拡大縮小, 11
 認証, 11
 起動, 8
 間でのコピー&ペースト, 11
アプリケーションの中断, 8, 9
アプリケーションの再開, 8, 9
アプリケーションの取り消し, 8
アプリケーション領域, 7
エラーメッセージ
 アプリケーションの起動時, 8
クライアントドライブ, アクセス, 28
クライアントプリンタ, 構成, 28
クリップボード, 11
グループ
 作成, 15
ゲストユーザー, 7
コピー, 11
スケーラブルウィンドウ, 11
スプラッシュ画面, 2
セキュア接続, 8
デスクトップ, フルスクリーン, 17
ブラウザ
 Java テクノロジ対応の, 1
 JavaScript 対応, 1
 閉じる, 10
プロキシ設定, 変更, 27
ペースト, 11
メニューバー, 7
ユーザー名, 1, 7
ログイン URL, 1, 2
 変更, 27
代替 PDF ビューア, 指定, 27
共有アカウント
 Webtop ユーザー名, 7
 ブラウザを閉じる, 10
初期接続ダイアログ, 3
匿名ユーザー
 Webtop ユーザー名, 7
 ブラウザを閉じる, 10
印刷
 PDF ファイル, 13
 UNIX プラットフォームアプリケーション, 12
 Windows アプリケーション, 13
 ユーザー構成, 28

 印刷ジョブの管理, 12
 問題のトラブルシューティング, 14
印刷領域, 7
取り外し可能ドライブ, 使用, 29
安全でない可能性のある接続, 5
情報領域, 7
標準接続, 8
用語集, 35
言語, 変更, 27
診断情報, 7
認証
 アプリケーション, 11

A

Apple Macintosh マウス, 1 つボタン, 11

C

Client のインストール, 19

J

Java テクノロジ対応の Web ブラウザ, 1
JavaScript, 1

M

My Desktop, 17

P

PDF 印刷, 13
 デフォルトでは、ビューアの変更, 27

S

SGD
 スプラッシュ画面, 2
 ログアウト, 17
 用語集, 35
 紹介, 1
SGD Client
 手動インストール, 19
SGD からのログアウト, 17
SSL 接続, 8

U

Universal PDF Printer プリンタ, 13
Universal PDF Viewer プリンタ, 13

W

Webtop
 アプリケーションの追加, 7
 アプリケーション起動リンク, 8
 アプリケーション領域, 7
 メニューバー, 7
 ユーザー名, 7
 印刷領域, 7
 情報領域, 7
 紹介, 6
Windows アプリケーション, 13

